

# 天塩川シーニックバイウェイ

北海道

## ■地域のねらい

テーマ：北の大河に人と自然の調和が織りなす道  
「みち」と「川」と「自然」と「ひと」の関わりを大切に、共存共栄を目指して、これまでの活動のさらなる発展を目指し、道をきっかけとした地域づくり、まちづくりを進めていきます。また、広域観光周遊ルート「日本のてっぺん。きた北海道ルート。」にも認定されたことで、近隣市町村および隣接するシーニックバイウェイルートと連携した、より広域的なエリアの展開を見据えながら、更なる活動の充実を図っていきます。

## ■活動エリアと地域資源

### ～活動エリア～

・上川北部9市町村で構成する当ルートは、北海道遺産「天塩川」と国道40号がほぼ平行しながら南北に伸びている地域です。国道40号、国道239号、国道275号を通して宗谷やオホーツク、日本海方面へのルートが確立し、沿線9市町村のエリアで構成されています。

### ～地域資源～

・日本では希少な原始河川で、なおかつ北海道遺産にも指定された「天塩川」を有し(川の長さは日本で4番目)、名寄川や雨竜川、剣淵川など、川が育んだ肥沃な大地を活かした全国有数の農業生産地(“日本一”が沢山)です。  
・内陸部のため、寒暖差が大きく、夏は暑く、冬は非常に寒い上に豪雪という北海道内でも特に四季にメリハリがある地域で、それらを活かしたイベントの実施や、手つかずの美しい自然景観が残っています。

## ■地域の活動推進体制

「ルート運営代表者会議(活動団体25団体)」

「行政連絡会議(国土交通省、北海道、関係市町村)」

## ■地域資源、活動内容



▲天塩川でのカヌーイベント「ダウン・ザ・テッシー」

天塩川の語源である「テッシ・オ・ペツ」。「テッシ」は「梁(魚を捕獲する仕掛け)」、「オ」は「多い」、「ペツ」は「川」を意味します。ルート名とあわせて使うことで、北海道らしいルートであることをより強調できるようニックネームとして使用します。



▲地元木材を使用したオリジナルサイクリングラックの設置



▲「北海道命名之地」と松浦武四郎の歩いた軌跡等の紹介(音威子府村)



▲イベント会場でのシーニック活動のPR展示



▲沿道の景観向上にむけた取り組み：花植え活動(上)や除草活動(下)



▲宗谷シーニックバイウェイルートとの広域連携による取り組み「きた北海道エコ・モビリティ」事業を推進。写真は、サイクリング連携イベント「TEPPEN-RIDE 2017」の様子



▲冬の美しい自然現象「サンピラー」



▲ルート情報拠点「よーな」(名寄市)